

(家庭数)

平成 29 年 9 月 28 日

明正小 PTA 会長 高取 亮太

明正小家庭教育学級委員長 細田 桃子

平成 29 年度 第 1 回 家庭教育学級 開催報告

清秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

去る 9 月 20 日(水)、本校ミーティングルームにて第 1 回家庭教育学級を開催いたしました。講師にファイナンシャルプランナーの鈴木さや子氏をお招きし、「おこづかいで育む社会を生きる力～伝えたいお金を大切に作るココロ～」というテーマで講演をしていただきました。

当日は、世田谷区教育委員会の平田先生、青少年委員の黒崎様をはじめ、69 名もの皆様にお集まりいただきました。

講師の鈴木先生の、ご自身の体験談を交えた楽しく分かりやすい講演に、ご出席の皆様はすぐに引き込まれ、メモを取りながら興味深げに耳を傾けておられました。講義だけでなく、「お金の価値観」についてディスカッション形式で話し合う時間もあり、終始和気あいあいとした雰囲気、大盛況の家庭教育学級となりました。



以下、講演概要とアンケート結果についてご報告させていただきます。

【講演概要】

これまで、家庭で赤裸々にお金の話をすることはある意味タブー視されていた。それが、なぜ今お金の教育が必要なのか？それは、年金の先細りや、ネットショッピングや電子マネーの普及でお金の扱いがあまりに手軽になり、トラブルも増えるなど、私たちを取り巻く現代社会が急激に変化しているためである。今後、私たちがトラブルに巻き込まれず、大きな損をせず、自分で稼ぐ力を養い、やりくりをして、自分の価値観に基づき幸せに生きるために、適切なお金の教育は避けられない。そのために、まずは家庭の中でお金の事をオープンに話せる環境づくりが大切だ。

お金に関する知識や判断力は、小学生のうちに家庭で身に付けることから始まる。例えば、スーパーで子どもに一定のお金を渡し、限られた金額の中で買い物させることによって、必要なもの(ニーズ)と欲しいもの(ウォンツ)の区別をさせる。また、家族旅行のために子どもにお金を貯めている姿を見せることで、目的をもってお金を使うことを教える。親子で話しあいやルール作りをするなど、家庭でのコミュニケーションが大切だ。家庭でのお金の教育は、適切な職業観を身に付けることにもつながる。

(裏面につづく)

それでは、おこづかいについて考えてみよう。

まず、おこづかいはいつ頃から渡し始めれば良いのか。それは、子どもが自分で物を買うことができ、価値基準を理解し、貯めることができるようになった時である。

次に、いくらあげれば良いのか。それは、子どもがおこづかいで何を買いたいのかを考慮して決めることになる。

おこづかいで身に付く力は何か。将来に役立つ力として、マーケティング力、コミュニケーション力、交渉力、マネジメント力が挙げられる。具体的には、子どもが買い物をして物の良し悪しに気付く力、お店の人などとやりとりをする力、一年間でおこづかいを何に使い、よっていくら上げて欲しいかを親に掛け合う力、限られた金額の中でやりくりする力などである。

おこづかいはどのように渡すか。①定額制、②報酬制、③定額制＋報酬制、の3つの方法がある。①定額制は、管理をしやすい反面、お手伝いをしなくてももらえてしまう。②報酬制は、就労の対価であることが実感できる反面、何でもお金に換算して考えるようになってしまう。両者を探り入れたものが③定額制＋報酬制である。一例として、子どもに自ら選ばせたお手伝い項目に応じて親子でポイントを決め、定額のおこづかいに加算して渡すなどの方法がある。①～③それぞれ一長一短があるので、家庭に応じて決めていく。

おこづかいの使いみち(貯蓄を含む)はどのように決めるか。3つの目的…自分で使うお金、人のために使うお金、いざという時のためのお金がそれぞれいくら必要か、に分けて考えると良い。お金を使う目的さえはっきりしていれば、例えばその目的のためにまず貯蓄を行う“先取り貯蓄”をすることもできる。

昨今、急速に身近な存在となりつつある電子マネーを持たせる時のポイントは何か。それは、何に使うのかを明確にさせる、利用履歴や残額を、親だけでなく本人にも定期的に確認する癖をつけさせる、インターネットを使ってワンクリックで買い物をしても、お金を使っているという認識を持たせることなどである。

実行するにあたっては、家庭でのコミュニケーションが鍵になる。親子で楽しくお金と向き合うことで、お金と健康と心のベストバランスを見つけ、夢をかなえる生き方につなげてほしい。

【アンケート結果】

参加人数・・・69名 / アンケート回答数・・・43名

- 講師のお話しがテンポ良く体験談も交えての話しが楽しくわかりやすかった。
- 親子でコミュニケーションをとりながら、お金について話す機会を作ろうと思った。
- お金を使うことは悪いことではなく、上手に使うことが大事なのだとわかった。
- 満足できるお金の使い方については、考えた事がなかったが、今後はお金も喜ぶ満足できる使い方を意識したい。
- すぐに実践できる具体的なテーマの選出が良かった。

～他、多数あり～

以上